

対応のポイント

事前の予告で心の準備を

予測することが難しく、先の見通しが持てずに不安を感じます。予定や行き先などの情報をあらかじめ伝えておきましょう。急な予定変更はその都度伝え、「変わっても大丈夫！」という安心感を与えることが大切です。

視覚情報を活用しよう

言葉だけでなく、写真・絵・文字など目で見てわかるようにすることで理解が進むことがあります。一日の予定を表にしたり、収納場所にイラストを貼るなど視覚化の工夫をしてみましょう。動作を教えるときは、実際にやってみせるのも効果的です。

指示はひとつずつ、具体的に

集中や記憶の問題により、一度にたくさんの情報を処理することが難しいため、長い説明や複数の指示は混乱してしまいます。また、「これ」「それ」などのこそあど言葉や「きちんと」「ちょっと」といった抽象的な表現も理解しにくいものです。指示は、短い言葉で順番にひとつずつ具体的に伝えましょう。

✕ 「手を洗って着替えてからおやつを食べます」→「まず手を洗います」
「ちゃんと服を着て」 → 「シャツのすそをズボンに入れて」 ○

肯定的な声かけを

不適切な行動が目につきやすいと、注意や指摘を受ける回数も増えてしまいます。善悪を教えることは必要ですが、強い口調で「○○してはダメ！（否定的）」「○○しなさい！（命令形）」と叱ってばかりでは「また怒られた」と自信を失くしたり、かんしゃくやパニックを引き起こすきっかけにもなります。落ち着いた声で「○○しよう」と伝えましょう。「叱る」よりも「教える」という視点で接することが大切です。

✕ 「うるさい！」 → 「病院では小さな声で話そうね」
「早く！遅い！」 → 「時計の長い針が6に来たら出かけるよ」
「走ったらダメ！」 → 「お店の中では、歩きましょう」 ○

スモールステップでほめて伸ばそう

得意なことがある反面、苦手を数多く抱えていると失敗を繰り返すことも多く、失敗を過度に恐れるあまり、能力はあるのにちょっとした困難でも避けるようになってしまいます。目標までの段階を細分化し（スモールステップ）、少しがんばればできそうなところに課題を設定しましょう。できなくても取り組めたことを認めるなど、「できないこと」ではなく「できること」に注目してほめることが大切です。無理に苦手を克服させるのではなく、得意分野を活かす工夫で成功体験を積み重ね、自信につなげましょう。

上手にストレスを解消しよう

発達障害を抱える子どもは様々な事に敏感なうえ、うまく対処することも難しいため、ストレスをためやすい傾向があります。大好きなことが思いきりできる時間を持つなど、子どもなりのストレス解消法と一緒に見つけましょう。

また、日々子どもの対応に追われる保護者の育児負担は大きく、常に緊張状態に置かれていると心身の不調や親子関係の悪化を招く原因となってしまいます。家族や先生、医師や専門職、同じ悩みを共有できる友人など心強い支援者を見つけて相談し、保護者だけで抱え込まないようにしましょう。時には子どもから離れて趣味に打ち込むなどリフレッシュすることも必要です。

子ども発達支援センターができること

対象者 熊本市在住の0歳～18歳までのお子さんとその保護者の方

- 1 電話相談（随時受付）
月～土 ※祝日・年末年始を除く / 8:30～17:15
- 2 来所相談（予約制）
月～金 ※祝日・年末年始を除く
- 3 訪問支援（相談後、必要に応じて）
 - 園や学校での生活状況の把握
 - 園や学校との情報交換や情報提供など



ご利用のながれ

電話相談・予約



面接相談



継続支援

- 専門スタッフが、お電話にて相談をお受けします。
- ご要望があれば、面接相談の予約をお取りします。
- 保護者の方から、日頃のお子さんの様子をおうかがいします。
- 遊びなどを通して、お子さんの様子を見ます。
- 必要に応じて検査をします。
- お子さんに合った支援を提案し、一緒に考えていきます。



待合室



医療相談室



療育室



あそびのおへや



心理室



サーキット室

詳しくは、熊本市のホームページに掲載しています。

子ども発達支援センター 熊本

検索



子育てでお悩みの方へ… こんな心配や 気になることはありませんか？

ことば

- 言葉がでない、少ない
- 発音ははっきりしない
- 吃音がある
- 言いたいことをうまく伝えられない
- 言葉の理解が難しい

運動

- 運動面が遅れている
- 力が弱い
- 手先が不器用
- 転びやすい

人との関わりや行動

- 集団行動が苦手
- 初めての人や場所が苦手
- 友達と遊べない
- 落ち着きがない
- 集中できない
- かんしゃくが激しい

どうして？ どうしたらいい？



学習

- 計算が苦手
- 漢字、ひらがなを覚えられない
- 音読が苦手
- 文章の内容が読み取れない
- 絵を描くのが苦手

食事

- 特定のものしか食べない
- 噛めない
- 飲み込みにくい
- むせやすい

生活習慣

- 寝つきが悪い
- 夜泣きが激しい
- おむつがなかなかはずれない

📞 ひとりで悩まず、まずはお電話ください。

電話：096-366-8240

専門スタッフが、ご相談に応じます。
お子さんに合ったかわり方を、一緒に考えましょう。

熊本市子ども発達支援センター

〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号
総合保健福祉センター「ウエルパルクまもと」2階
FAX：096-366-8260



- 医師
- 保健師
- 保育士
- 教育支援相談員
- 理学療法士
- 作業療法士
- 心理相談員
- 言語聴覚士

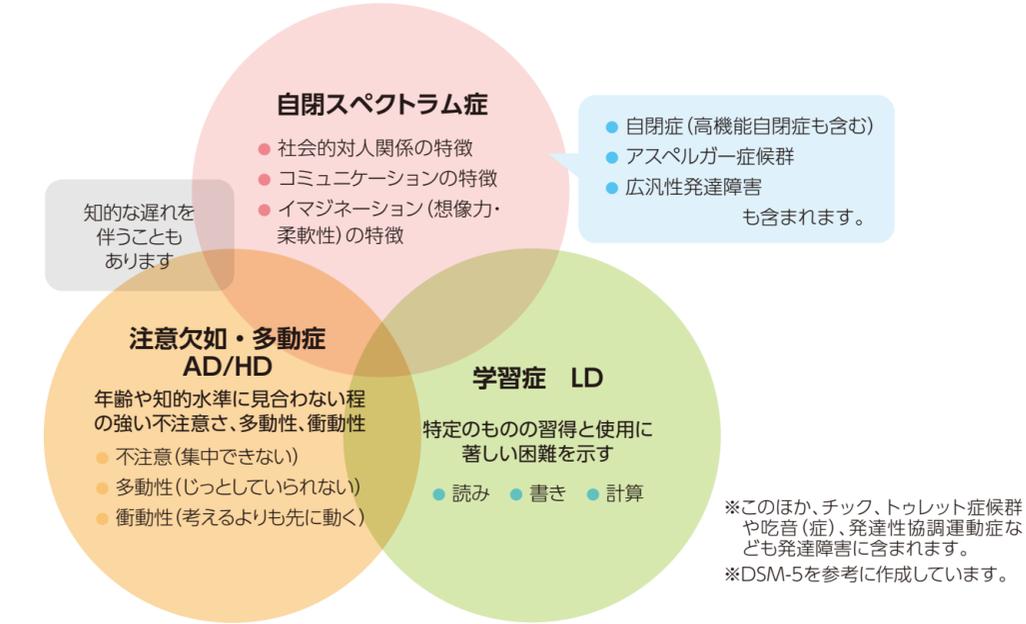
「発達障害」ってなんだろう？

発達の凸凹（でこぼこ）は、大なり小なりどの子どもにもあるものです。しかし、この凸凹（得意・苦手）が非常に大きいと、本来持っている力を発揮できずに、子どもが日常生活で困り感を抱えたり、親にとって育てにくさを感じたりすることがあります。

発達の凸凹によって、周囲の環境と不適応を起こしている状態を発達障害といい、外見だけではわかりにくいので、親のしつけができていない、わがまま、変わった子といった偏見や誤解を受けることもあります。

発達障害は、環境や心理的な問題が原因ではなく、脳の働き方（情報処理の仕方）が他の人と異なっていることによって生じます。この違いによって生じた行動の組み合わせに名前（自閉スペクトラム症、AD/HD など）がついています。

これらの行動特徴は、発達の早期に兆候がみられ、手術や薬によって治る性質のものではありませんが、早い時期に周囲の人が子どもの行動を正しく理解し、適切な対応や支援をすることで、生活上や学習上の困難さを軽減できることがわかってきました。



早期発見・早期支援が重要です！

子どもが生まれつき持っている発達特性と周囲の環境が合わないと、本人が努力してもうまくいかず、「頑張ってもどうせだめだ」「自分だけが何か他の人と違う」といった、自己否定感や疎外感を抱いてしまいます。

一方、家族や先生も不可解な行動への関わり方に悩み、徐々に子どもを心理的に受け入れづらくなり、結果として、不適切な対応(極端な体罰、暴言など)に至ることがあるかもしれません。また、家族が将来を悲観したり、自分自身を責めることになってしまう場合もあります。

発達障害であることに周囲が気づかず、表面の行動の修正だけを続けていくと、自信や意欲がなくなり、不登校や引きこもり、非社会的行動、うつ状態、被害感情を持ちやすいなど、二次障害が生じることも考えられます。

子どもの行動を正しく理解し、正しい対応ができるためには、子どもの発達特性を知ることが大切です。二次障害を防ぐためにも、家族だけで抱え込まず、早めに御相談ください。

発達障害の分類と特徴

特徴の現れ方は一人ひとり様々で、次にあげる特徴の全てが当てはまるわけではありません。また、それぞれの特徴が重複して現れ、障害をあわせ持つこともあります。

ただし、同じような特徴があったとしても、必ずしも発達障害があるとは限りません。

自閉スペクトラム症

次の3つの特徴をもち、典型的な子どもは幼少期に症状として現れますが、軽度の場合は学齢期まで分からないことがあります。スペクトラムとは連続体の意味で、症状の程度や種類で明確な境界線がなく、症状が多岐にわたることを表しています。

- 社会的対人関係の特徴**
 - 視線が合いにくい
 - 呼びかけに反応しないことがある
 - 介入を嫌がり、関わり方が一方的である
 - 他人への関心が乏しい
 - 一人遊びが多くマイペースである
 - 年齢にあった常識が身についていない
 - 表情や身振りなどの手段で関わるのが苦手である
- コミュニケーションの特徴**
 - 言葉の遅れがある
 - 共感や要求の指差しが少ない
 - 言葉や動作の模倣が苦手である
 - 指示が通じにくい
 - オウム返しが多い
 - 独り言が多い
 - 場面に合わない発言がある
 - 年齢に応じたごっこ遊びができない
 - 会話がうまくできない(全くしゃべらない、一方的にしゃべる、話がとび)
- イマジネーション(想像力・柔軟性)の特徴**
 - パターン化された生活にこだわる(物の位置、食事、服装、順路など)
 - 特定のものに執着する(動くもの、玩具、数字など)
 - 同じことを何度も繰り返す
 - 考えや気持ちの切り替えが苦手
 - 並べる遊びに熱中する
 - 新しい場面や経験のないことに対し強い不安を示す
 - 匂いを嗅ぐ、手のひらをひらひらさせる、身体を揺する等の行動がある
- その他の症状**
 - 感覚(触覚・味覚・聴覚・臭覚・視覚)が過敏、あるいは鈍感すぎる
 - 不注意、衝動性、落ち着きのなさがある
 - 睡眠障害
 - 運動が苦手
 - 不器用
 - 体温調節が苦手
 - チックや吃音がある
 - 偏食



注意欠如・多動症 (AD/HD)

年齢や知的水準に見合わないほどの強い不注意、多動性、衝動性を特徴とし、多くは12歳までに症状が現れます。

不注意

- 細かな注意を払うことができず、ケアレスミスが多い
- 気が散りやすく、集中が続かない
- 順序よく物事を進めることが苦手である
- 忘れ物が多く、物を失くしやすい
- 手遊びやもの思いにふけることが多く、授業に集中できない
- 面と向かって話しかけているのに、聞いていないように見える



多動性

- 落ち着きがなく、じっとできない
- 座っていても手足が動いていたり、すぐに席を立ったりする
- 待つことが苦手であらうろする
- 急に教室を飛び出すことがある
- 気が散りやすく、周囲のちょっとしたことが気になる



衝動性

- 順番が待てない
- 他人がしていることをさえぎったり、邪魔したりする
- 他人の会話に割り込んだり、延々と話し続けたりする
- かつとなりやすく、物を投げたり相手をたたいたりする
- 約束やきまり事を守れない
- せっかちでいらいらしてしまう



学習症 (LD)

知的発達に大きな遅れはないのに、読む・書く・計算するといった能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示します。

読みの困難さ

- 文中の語句や行を抜かして読む
- 同じところを繰り返し読む
- 一文字一文字のたどり読み
- 読み違えが多い
- 訓読みを音読みする
- 句読点での切り方があいまいで意味不明になる
- 文字や文章を読んで理解することが困難

書字の困難さ

- 字の形や大きさ、向きが整っていない
- 鏡像文字や似た字を書く(い→り、ツ→シ、上→土、た→式、犬→太、氷→永)
- 漢字の細かい部分を書き間違える
- 簡単な作文や、決まったパターンの文章しか書けない

その他

- 集団の中での言葉の聴き取りが苦手
- 複雑な内容が分からない
- 注意の集中や持続が長時間できない
- 順序だてて説明することが難しい
- 聞いたことをすぐ忘れる
- 気持ちをうまく伝えられない

計算の困難さ

- 足し算、引き算、位取りが難しい
- 筆算の桁がずれる
- くり上がり、くり下がり間違いが多い
- 小数や分数などの意味や表し方の理解が難しい

※文部科学省の学習障害の定義では、読み・書き・計算に加えて、聞く・話す・推論する能力の困難さも含みます。

